

学部間対抗ゴミ押し込み棒の効果検証

1. 概要

大阪大学のある棟では、もえるゴミのゴミ箱が溢れ、散乱することが課題となっていた。その原因として、①捨てる際にごみを小さくまとめていないこと、②ゴミが溢れてしまっても、ゴミを触ることの抵抗からそのままゴミを積み上げてしまうことの2点が考えられる。そこでゴミを押し込む棒と、学部対抗でゴミの押し込みを競争する行動の喚起を目的としたポスター、そして学部ごとに押し込んだことを示すシールを作成・設置した。

2. 作成した仕掛け

作成したポスターを図1、ポスターとゴミ押し込み棒、そしてシールを設置した様子を図2に示す。



図1: 作成したポスター



図2: 仕掛けを設置した様子

3. 実験について

期間: (仕掛け介入前)2026/01/06 ~ 2026/01/13 のうち5日間

(仕掛け介入中)2026/01/14 ~ 2026/01/23のうち7日間

場所: 大阪大学豊中キャンパス豊中共創棟B

測定項目: ①ゴミ箱で溢れているゴミの量(溢れている分を回収し、

目視で0~5でカテゴライズ)、②回収した時間帯、③シールの貼付数(仕掛け介入中のみ)

4. 実験の結果

以下に溢れゴミ量とシール増加分の推移を示す。図3は最終日のシール貼付状況である。仕掛けを導入した期間中には、ゴミが溢れていない日が2日観測された。

<仕掛け介入前>

日付	1/6(火)	1/7(水)	1/8(木)	1/9(金)	1/13(火)
回収時間帯	18:05	18:25	18:57	20:33	19:49
ゴミ量	2	3	2	4	5

<仕掛け介入中>

日付	1/14(水)	1/15(木)	1/19(月)	1/20(火)
回収時間帯	18:05	20:52	20:57	20:57
ゴミ量	1	0	0	2
シール増加分	0	6	9	7

日付	1/21(水)	1/22(木)	1/23(金)
回収時間帯	20:49	20:55	20:58
ゴミ量	2	4	4
シール増加分	4	2	4

5. 考察と今後の課題

実験の結果、この仕掛け導入開始直後には効果的な可能性があるが、その効果は長続きしないことが示唆された。実験時期や施設利用者数を考慮し、かつより定量的で長期的な影響を調べるのが今後の課題といえる。



図3: 1/23におけるシール貼付状況